



今日も楽しいNR

会員 高橋 里沙 (64期)

2022年8月にロースクールの同期の二木弁護士と法律事務所を開設した。

彼女とは学生時代から非常に仲が良く、卒業後も公私共に悩みや喜びを共有してきた気の置けない大切な友人である。そのため、巷でよく聞く「同期と事務所を開設したものの事務所経営等について揉めて離別し、連絡すら取らなくなった」というパターンは絶対に避けたいと考えており、「果たして一緒に事務所をやって大丈夫だろうか。雲行きが怪しくなってきたらすぐに畳もう」という不安と覚悟の下で開設した。

しかしながら開設から1年半が経ち、その心配は杞憂だったと感じている。毎日の業務がとにかく楽しく、以下のとおりプラスの効果が圧倒的に多いように感じる。

■ 事件処理の合議がはかどる

学生時代からの仲でありお互いに対等という意識が根付いているため、事件の見通しや方針、あるべき論などについて何の遠慮もなくあれこれ話すことができ、結果として依頼者の納得のいく解決につながっている。

■ お互いの得意分野、経験分野を融合して事件処理にあたることができる

事務所を開設するまではお互い別の事務所に在籍していたため、経験してきた事件の種類が大分異なる。例えば、二木は専門分野に特化したブティック系の事務所で長く仕事をしてきたため、私1人であれば他の弁護士に流してしまうような特殊事件も受任し解決を目指すことができる。対して私は、いわゆる街弁が取り扱うような泥臭い紛争案件を幅広く取り扱ってきており、また、タイの現地法律事務所に勤務していたなどの経験から、2人の異なる経験分野や知見を融合して新しい分野にも挑むことができている。

■ 得意作業と苦手作業のバランスがとれている

作業の得手不得手のバランスも絶妙である。例えば私は相手方も依頼者とも電話で話すのが好きだが、二木はメール派である。なんでもじっくり考えてから筆をとる二木に対し、私はとりあえず書き出す（その

ため分析が甘い文章になりがちである）。これにより、2人でやると取りこぼしなく作業を進めることができ、案件が滞ることを可能な限り防げているように思う。

■ ストレス軽減

弁護士業務をしていて直面する悩ましい問題や、胃が痛くなるような相談、依頼者からの突き上げも、2人で共有すると少し軽くなり、時には笑い飛ばせる。気が重い期日も気の重さが半減する（それでも気が重いものは重い）。私生活においても、2人とも同じ年齢の娘がおり、子育ての悩みや、夫に対する愚痴などを言い合いガス抜きができるのも大きい。

■ とにかく楽しい

身も蓋もないが、友達に毎日のように会うことができとても楽しい。これは友達と事務所をやる醍醐味であると感じる。事務所でふとコーヒーを飲んで一息つくときも、友達との楽しいおしゃべりコーヒーブレイクに様変わりする。



ロースクール時代の私(左)と二木弁護士(右)

ここまで縷々「気の置けない友人との事務所開設のススメ」を書いてきたが、私たちが数年後に全く違う事務所に在籍していたら、それはそれとして察してもらえたら幸いです。なお、事務所名に冠した「NR」の由来についてよく聞かれるが、「にきちゃん（二木）」と「りさちゃん（高橋）」のイニシャルであることは限られた友人にしか話しておらず、依頼者には「New Rail」の頭文字であるなどと伝えている。